

もう一つの逆襲のシャ
ア～Zは宇宙を駆ける～

parui

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

もし、カミーユが精神崩壊していなかったら？

もし、カミーユが第二次ネオ・ジオン抗争にいたら？

そんな世界。

カミーユが関わることにより、

世界の一部の時間がずれている世界。

Zは宇宙を駆ける。

あなたはもう一つの逆襲のシヤアを知る。

目次

一話【戦争の道具】

1

一話【戦争の道具】

「アムロ大尉！」

「カミーユ、どうした？」

リ・ガズイのコックピットの中で、作業を行っているアムロ大尉に声を掛ける。

「サイコフレームの研究はどうなんですか？」

「ああ、順調ではないな。元になるものがあるとはいえ。」

「元つてジオンの誰かが横流してきたという噂の？」

「ん、ああ、恐らくはな。」

サイコフレームの技術の基礎は、ジオンからの横流しだという噂がある。

誰かがでつち上げた適当な噂だと思っていたが、

時がたつごとにその信憑性は高くなっていた。

誰も知らないのだ。

この情報が誰から手に入れたのか。

「火のないところに煙はたたぬ」という諺もあるが、それは本当かもしれない。

「しかし、あのシヤアが反乱を起こすなんて。」

「カミーユにとつてはクワトロ・バジーナだったか」

「やめてください、僕にとつての認識は既にシヤア・アズナブルです」

「ああ、悪かった」

アムロ大尉は冗談で言ったのだろうが、正直そう言われるのはかなり嫌だ。もうあいつはクワトロ・バジーナではない。

俺の知っているクワトロ・バジーナは俺が殴ったときに壊れ、

最後の戦いの時に死んだんだ。

今、ジオンを統括しているのはあくまで、シヤア・アズナブルだ。

「ではアムロ大尉、失礼します」

「後でな」

「はい」

笑顔で手を振りながら別れを告げるアムロ大尉の元を離れ、

自分の機体のところに行く。

Zガンダム Mk-V。

俺がもう一度設計に関わった、Z計画の派生一つ。

基本的な見た目はZとあまり変わらず、

機動性に重きを置き、サイコミュを含む性能を全体的にパワーアップした機体。

現在、ロンド・ベルでトップの性能を誇っている。

しかし、アムロ大尉のレガンダムがもう少しで完成するらしいので、ナンバー2になるのは時間の問題だ。

遠くから眺めていると、横から声が掛けられる。

「カミーユさん」

「ハサウエイじゃないか、なにかあったのか？」

「いや、なにもないんです。偶然見掛けたから」

「ああ、そうか」

俺に声を掛けたのは彼、ハサウエイ・ノアだ。

クエスとかいう一人の女の子のために乗艦した子供。

ふとフォウのことを思い出し、キリと胸が痛む。

「ZガンダムMark-V。すごいですね」

「それでもないさ？直ぐに追い抜かれるよ」

「何にですか？」

「レガンダムにさ」

「レガンダムって」

「戦争の道具さ」

「.....？」
「リガンダムを戦争の道具と称するカミーユ。
しかし、彼は知っていた。
自身もまた、戦争の道具であることに。」